

[平成 22 年度 MISA 人財育成委員会向け資料]

平成 22 年度実施

新人研修（認定職業訓練）に対するヒアリング調査報告

（受講企業および受講者へのヒアリング調査結果）

（第 1 版）

平成 22 年 10 月 22 日

社団法人宮城県情報サービス産業協会  
人財育成委員会 新人研修検討部会

ヒアリング実施者：仙台ソフトウェアセンター（NAVIS）

1. ヒアリング結果の全体総括と来年度以降への示唆

全 41 日・受講料 410,000 円

	項目	受講企業の意見等の主要点	運営側総括及び想定される対策
1	全般に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全般的な印象は良好である。<b>仕事の段取りや自発的な行動力につながる付加価値的な要素</b>についての評価が各社とも特に高かった。</li> <li>• 景気事情を受け予算的に厳しい条件の中で、企業が期待する一定の成果を出すことが出来たといえる。</li> <li>• 来年度新卒採用がない企業を除く全社から継続参加の意向を頂けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MISA 企業合同訓練は、各社とも期待している新人同士の横のつながりの面でも非常に効果が高く、協会事業として果たす役割は大きい。</li> <li>• 各社とも合同訓練によるコミュニケーション面での鍛錬に対する評価は極めて高かった。</li> <li>• 技術系コースは内容面での満足度は高かったが、講義の進行の仕方など細かな点で課題が残った。</li> </ul>
2	ビジネス基盤養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本コースは各社とも評価・期待が極めて高く、今後も重要な役割になると位置づけられる。</li> <li>• 特に IT ビジネスコミュニケーション／提案プレゼンの評価が極めて高く、プレゼン実習見学会は企業担当者側としても有益な機会となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本コースはほぼ確立しているといえるが、受講ニーズの変化や新たな要望があれば内容を一部入れ換えることも検討したい。</li> <li>• <b>プレゼン実習の見学機会を有効に活用し受講企業外へ如何に P R していくかの</b>検討が今後必要である。</li> </ul>
3	IT 技術基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全体のカリキュラム構成についての満足度は高く、昨年の問題点もほぼ改善されたと参加企業から評価されている。</li> <li>• 開発基礎技術の定着と模擬プロジェクト演習を両立した内容は、今年度から参加した企業においても満足度は高かった。</li> <li>• 今年度新設した「開発マネジメント基礎コース」については「<b>開発プロジェクト全体の体験と理解</b>」「<b>考えデザインする力を養う</b>」などの点で参加企業からは内容を高く評価されている。</li> <li>• 事前スキルチェックの内容を<b>来年度の採用者にやらせる事前学習の指標として活用</b>するという声の一部が上がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今年度の改善目標に挙げた課題演習の消化不良については、<b>開発する規模・質を同等に保持しながらも演習指導のやり方の工夫により改善</b>することができ、受講企業からも満足の声が上がった。</li> <li>• 昨年度に不満の声が上がったクラス間・グループ間の受講生レベルのアンバランスは、<b>今年度に取り入れた事前スキルチェックにより解消</b>できたと総括する。</li> <li>• MISA 全体ではプログラミング重視の傾向が強く、「開発マネジメント基礎コース」のニーズは少ないが、本来は重視すべき内容である。引き続き受講企業のニーズを収集しながら来年度の継続可否を今後検討したい。</li> <li>• 言語やスキルだけでなく情報処理基礎知識のチェック項目を加えるなど、<b>事前スキルチェックを各社での事前学習の指標としても活用できる内容に今後ブラッシュアップ</b>していきたい。</li> </ul>

4	オブジェクト指向開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年の課題である <b>Java</b> のプログラミング力の定着と課題演習の負荷軽減については改善されたと企業からも評価されており、コース内容全般について高い満足度を得ることができた。</li> <li>・各社共に <b>Java</b> プログラミングスキルの育成が最重要項目であるのは変わらないが、本講座の特色である「プロジェクト業務の模擬体験（設計、品質・納期）」との両立も強く要望されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題演習については、時間的に難しい部分は講師から援助を入れる、自由課題から講師指定課題へ転換する等により、業務プロジェクト模擬体験という本来の目的は保持しつつ演習ボリュームの適正化を図ることが出来た。</li> <li>・ここ数年来、割合が増えている <u>文系出身者や未経験者のプログラミング力が高まるよう更なるブラッシュアップ、カリキュラムの柔軟な対応</u>は必要である。</li> </ul>
5	技術系コース全般に関して（総括）	<p><b>(初心者の急激な増加)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数年前と異なり、文系出身者や初心者を採用する企業が増えており、<b>初心者対策は最重要課題</b>である。</li> </ul> <p><b>(成果発表の更なる工夫)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「受講者自身の学習成果／成長の発表」への転換は一定の評価を得ている一方、以下のような内容をより深く見せてほしいという要望が出ている。</li> <li>◆設計で新人が考えた部分、デザインした部分により時間をとって、参観者を交えて議論するのもよい。</li> <li>◆出来なかったことがあれば深く追求し、原因と対策などを議論する。</li> <li>◆要求された「システムの目的」を満たすことができているか等、開発したシステムの評価・検証をする。</li> </ul> <p><b>(人物評価・社会人基礎力の重視)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者評価に関しては、採点式は他者の基準によりつけたものであるから参考程度にしかならないという意見が多かった。</li> <li>・人格の面でおかしな部分や評価できる部分などを知りたいという「<u>人物評価</u>」を希望する声が目立った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初心者をフォローアップする能力を重視し、講師の持つ技術力よりも「<u>教える力</u>」のある講師への講師変更を行い、初心者対策を強化する。</li> <li>・1 チーム当たり発表時間は現状では 10 分～15 分であるが、各社の希望をできるだけ反映した上で、現状にこだわらず適切な時間と内容の展開を検討する。</li> <li>・「新人が考えた部分」や「システムの評価・検証」の内容については、<u>システムが出来上がった時点(成果発表の1日～2日前)の時点でクラス内レビューし、それを各社が見学できる機会として設けるなどの工夫</u>も今後検討したい。</li> <li>・<u>社会人基礎力(主体性、実行力、計画力、チームワーク等)</u>の育成による人間性の形成を重点課題とする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆求められる行動指針(○か条)をビジネス基盤コース内で受講者自ら作成し、IT 教育期間中は毎日意識しながら行動させる。</li> <li>◆上記と社会人基礎力について、各コース毎に事前・中間・事後の面談で評価・指導。</li> </ul> <p>※各社へ報告する受講者評価は「行動評価」「人間評価」を主体としたものとする。</p> </div>

6	<p>運営面での改善提案(各コース共通)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストセミナーの内容に関して、<u>今の自分たちからは、かけ離れた内容であると感じた</u>という意見が複数社の新人から上がった。</li> <li>・受講者ブログについては、企業担当者の変更や繁忙により閲覧されないケースが目立ってきた。反面、<u>受講者間で相手の状況を知るツール</u>としての使い方が増えてきている。</li> <li>・交流会は新人同士の横のつながりという面で各社とも期待は大きい。わざと交流させる仕組みを入れたことは受講者から好評価を得られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人が身近に感じられる人物による技術者キャリア教育変更したい。<u>MISA若手交流会等と連携した、若手SEによるキャリア講座</u>も検討の一つに入れたい。</li> <li>・ブログの受講者投稿において他の新人への質問を書かせる、質問掲示板の役割を追加で持たせるなど、<u>新人同士のコミュニケーションツールとしての機能を拡充させる</u>ことを今後検討したい。</li> <li>・交流会にて、交流を促す仕掛け（訓練同様の座席指定、他己紹介）を入れた成果は出ていると受講者ヒアリングの結果読み取れる。</li> </ul>
7	<p>助成金</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用能力開発機構（宮城県センター）の紹介を受けて助成金（認定実習併用職業訓練）の会社認定を新規で申請中であるという企業がヒアリング対象の10社中、2社確認できた。</li> <li>◆他8社中、4社が実習併用訓練の助成金、2社が専門的訓練の助成金を今年度利用している。</li> <li>◆平成22年10月1日の制度改正により「認定実習併用職業訓練」を含む3種の助成金に関して支給限度額が1,000万円に減額された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、助成金を利用した企業からの情報提供を受けて、今年度は<u>助成対象外となる研修内容「復習、発表会など」について日報やカリキュラム上の対応策</u>を施した。</li> <li>・今後も助成金運用のノウハウをさらに蓄積し、MISA訓練への確固たるサポートと訓練のさらなる利活用へつなげていきたい。</li> <li>・委員会レベルでは、さらなる助成金の活用と受講の促進に努めていただきたい。</li> </ul>
8	<p>来年度想定される課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨今の景気事情を受け、来年度の採用はさらに縮小し、参加者数は更に減少することが懸念される。</li> <li>・今年度は会員外企業の受講料を設定し窓口を広げたが、<u>積極的にMISA会員外の企業へPRしていくかについて検討が必要と思われる。</u></li> <li>・来年度は営業職のみ採用することになっている企業から、<u>営業スキルを育成する新人研修をMISAで開催できないか？</u>という相談を受けた。</li> </ul>	<p>(参考：ヒアリング時の各社見通し)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス基盤 →6社17名 ~7社21名</li> <li>・IT技術基盤 →6社24名</li> <li>・オブジェクト指向 →3社10名~5社22名</li> </ul> <p><b>【来年度の開催予定規模（現時点）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス基盤コース 1クラス20名程度</li> <li>・IT技術基盤（プログラミング） 1クラス15名程度</li> <li>・IT技術基盤（マネジメント） 1クラス15名程度</li> <li>+ 営業系（新規） 1クラス10名程度？</li> <li>・オブジェクト指向開発コース 2クラス 25人程度</li> </ul>

## 2. ヒアリング結果（生データ）

ヒアリング実施者：訓練運営担当 金野（NAVIS）

実施期間：2010年9月24日～10月12日の期間における訪問ヒアリング調査

※対象全12社（受講者総計38名）中、今年度IT技術系2コースのうちいずれかを利用いただいた企業10社に打診を行い、10社全てに訪問

調査対象：研修担当者クラス、受講者の2者（会社により異なる）

### 対象企業①

今年度受講生数：2名（全3コース（※IT技術基盤：I（システム開発技術））

日時：2010年9月24日（金） 10：30～12：00

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者1名、受講者2名
- ・MISA：金野（NAVIS）

### 1. 受講者の生の感想（担当講師：三苫）

（受講者A）

- ・どのコースも役立つ内容だったが、会社に戻って社内教育を受け感じるのは、Javaのプログラミングを勉強できたことが大変役立っていることである。また、チーム演習を通して、メンバーの状況把握や自分の状況を整理することが仕事を進める上で大切だということを確認できたのが有益だった。
- ・各チームは言語の経験がある人となない人でバランスよく配置されていたと思う。受講者の前提スキルにレベルの差があり、1つのチームをレベルの高い人と低い人で構成することは良い面と悪い面の双方あると思うが、今のやり方で特に不満は感じない。
- ・最後の成果発表では、自分の成長をメインにプレゼンして、開発したシステムの説明は最小限におさえる方針だったが、例えば、発表会場にデモ機を置いて、自由にシステムを観覧できるようにしたらどうか？
- ・ビジネス基盤コースでは、特に尾田講師の講義が印象的だった。仕事における物事の捉え方・考え方とか、顧客視点で考える重要性、顧客は自分の要求を正確に言えないなど、単に知識を学ぶだけでなく、考え方と関連付けての内容だったので大変ためになった。

（受講者B）

- ・コース全体に言えるが、複数の他の会社の新人と演習や作業を行い、いろいろな考え方の人に触れ、また知識や技術のレベルが様々な中で物事を進める経験ができて、大変ためになったと感じている。
- ・チーム演習を経験して、気がついたら動かなければいけないという意識が定着した。また、他社の新人との横のつながりも出来上がったので大変ありがたい。めったにない機会だと思うので、来年の新人にも薦めたい訓練だと思っている。

- ・提案としては、訓練が進むにつれて理解が遅れていく人や、最初から初心者でついていけない人が出てくると思うので、そういった人を別途フォローする仕組みがあったらよいと思う。例えば、訓練日以外の補講とか、マンツーマンで付きっきりの体制とか。
- ・ゲストセミナーの内容に関しては、もっと現場での実際の仕事よりの話が聞けたらよかった。今の自分たちからはかけ離れた話題のような感じがした。

## 2. 今年度実施訓練の評価に関して（派遣担当者）

- ・昨年の成果発表を見させてもらったときは、「時間がなくて開発システムのうちここまでしか出来ませんでした」というチームが一部あったが、今回はそれがなく一通り各チームが開発を終わらせたという点が評価できる。
- ・今年の自社の新人は、昨年の新人より事前スキルがあるので、MISA 研修を終えてきたときの新人の習熟度をもって単純比較は出来ないが、今年の新人が MISA 研修で身につけたものに期待不足はなかったので、大変よかった研修だと思っている。
- ・成果発表の内容に関しては、開発したシステム重視と新人の成長・成果重視のどちらでも構わない。内容より、伝えたいことの表現力を重視させたい。
- ・今年度のマネジメント系コースを選択しなかった理由は、申し込み時には新人がどこの業務につくか分からなかったこと、それに加えて「現場に入っても出来ること」だと感じたので技術定着コースのほうを選択した。

## 3. 来年度の計画など

- ・来年は2名の採用予定で、内定は出している。MISA 研修は是非参加させたい。ただ、情報処理系の学校卒ではないので、採用者のレベルを見ながら来年の参加コースを決める予定である。（オブジェクト指向コースまで参加させるか等）

### 対象企業②

今年度受講生数：4名（全3コース（※IT技術基盤：I(2名)、II(2名)）

日 時：2010年9月24日（金） 13:30～15:00

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者1名、受講者2名
- ・MISA：金野（NAViS）

## 1. 受講者の生の感想（担当講師：浅野）

（受講者A）

- ・MISA 研修に参加して有益だったのは、他社のいろいろな新人と演習を通して接し、いろいろな考えに触れられ、多くのことを教えられたこと。研修後も続く知り合いになれたことも大変うれしい。
- ・技術系コースでは、演習を通して失敗する経験をし、多くの気づきを得ることが出来た。チーム作業でリーダーを務めるのは多くの知識とスキル、そして配慮が必要ということもリーダー役の行動を見て理解できた。開発演習を通して、納期と品質の重要性が意識付いた。

- ・担当講師は新人の自主性に任せる方針で、細かく「あれをやれ、これをやれ」という指示を出さないやり方だった。最初はとまどったが、研修が進むにつれて「分かったつもりで分かっていないこと」が認識できるので、最終的には良いやり方だと思っている。
- ・ゲストセミナーの内容は、全般的に遠い先のことだと感じる。自分の現実に近い内容が聞けたらよかったと思う。

(受講者B)

- ・MISA 研修に参加して、大学や本で勉強できるのは基礎をかじるくらいのことだと実感した。MISA 研修は応用レベルまで勉強できるのが大変良い。出された演習問題は、大学で経験できることを超えている。Java や JSP など広い基礎知識に加えて応用力もつけられるので、開発するための基礎づくりができる研修だと感じた。本で勉強できることではないので、これからの新人には是非薦めたい。

2. 今年度実施訓練の評価に関して (派遣担当者)

- ・今年度初めて参加した理由は、MISA からの紹介があつて初めて新人訓練のことを知り、内容に魅力があったからである。それまでは社内で教育をしていたが、実際に訓練に参加させてみて大変満足している。成果発表を見学したが、短い期間でよくあれだけのシステムを作ったものだと感じている。
- ・特に他社の新人とチームを組んで作業をする部分がよい。そのことで社内教育では出来ない多くのことや、チーム作業で必要な感覚が身につくと思う。
- ・IT 技術基盤コースでマネジメント系に2人参加させたが、このマネジメント系の内容は新人教育として必要だと思う。今の時代、ものを作るだけではやっていけない。作る技術は当たり前で、それ以上の段階のデザイン力や考える力が重要となるからである。
- ・受講者評価一覧は参考にはなるが、他者が評価したものなので、自社で評価する材料という位置づけで見ている。新人の評価は社内で別に行っているので、評価をいただくのならば「人間評価」が欲しい。

3. 来年度の計画など

- ・来年度の採用については、現在1名採用が決まっていて、もう1名採用したい意向を持っている。採用者はMISA 訓練に参加させたいと考えている。
- ・参加コースは、オブジェクト指向コースについては継続して参加させる予定で、IT 技術基盤コースはマネジメント系を選ぶ可能性が高いが、これについては採用者のスキルを見て最終的に判断することになる。

### 対象企業③

今年度受講生数：1名（全3コース（※IT技術基盤：I（システム開発技術））

日時：2010年9月27日（月） 13：30～15：00

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者1名、教育担当者1名、受講者1名
- ・MISA：金野（NAViS）

#### 1. 受講者の生の感想（担当講師：浅野）

- ・同じIT技術基盤コースでもオブジェクト指向コースでも、クラスによって講義と演習にかかる時間や、研修後に残って作業をすることに対する方針が異なるなど、個性が分かれていたのが気になった。
- ・演習問題を与えて、まず自分だけで考えてやらせるという講師のやり方は、初心者の自分には大変つらかった。自分で理解が進まないうちに研修が進んでいった状況だった。
- ・ビジネス基盤コースの中であえて言うなら、ビジネス文書作成の演習に関して、個人での作成演習を行い、その指導を受けたかった。グループ演習から全体発表というやり方は特に問題ではなかったが。

#### 2. 今年度実施訓練の評価に関して（派遣担当者）

- ・全体を通して思うことは、最後の成果発表が目標になっていて、発表さえ無難に終わればよしとなっていると感じた。まったくの初心者を研修に参加させたが、基礎技術力の定着が出来ていないと思われる。チーム演習はよいが、演習のウェイトを軽くするなどして技術面での基礎力を優先してほしい。
- ・この訓練に望むことは、どれか1つの言語でよいからプログラミング力を固めること、自由に組めるようになることが第1である。そして、基本情報処理技術者程度の言葉を覚えて帰ってきてほしい。それがないと、まず会社で言葉が通じない。
- ・今回の担当講師は、講義で教えた後、問題を与えてまず自分だけで演習を考えてやらせる方針だったが、初心者の新人にはじめからそのやり方でやらせるのは厳しいと思う。最初のうちは問題演習もフォローしながらやらせて、ある程度になったら一人でやらせるというのであれば理解できる。
- ・受講者ブログについては、知ってはいたがほとんど見れなかった。定期的にメールか何か連絡がないと、見ようとするまでにならない。
- ・受講者評価一覧は、絶対評価ではないので参考程度に見ている

#### 3. 今年度実施訓練の評価に関して（社内教育担当者）

- ・過去にこの訓練を受けた経験も踏まえて言うと、チーム演習では経験者で技術のある人が多くの作業をやって、未経験者が作業をほとんどやらない結果になってしまう傾向があって、受講者全員に対しての技術力底上げになっていないと思われる。例えば、役割分担を新人に決めさせないで講師から指定するのはどうか？



- ・技術力が足りない人がいる、または出てくると思うので、その出来ていない人が研修とは別に時間をとって自主的に学習できる体制・仕組みがあればよいと思う。また、やる気を起こさせる工夫も当然必要になってくると思う。
- ・受講者一人ひとりに対して、分からなかったら講師がフォローしてくれるのが望ましい。それができる程度にクラスの人数を少なくしたらどうか？人数が多すぎると当然講師はその分細かくフォローできない。講師が全員のプログラムを見てフォローできる体制がよい。

#### 4. 助成金に関する要望

- ・助成金（認定実習併用職業訓練）の制度において、総訓練時間数が 300 時間以上と未満で、経費（受講料）の助成率が変わってくるので、助成対象外となる内容（説明会やオリエンテーション、発表など）が入って助成対象時間数が 300 時間を下回らないよう配慮を続けてほしい。（総訓練時間数 300 時間未満は 1 人 1 コースあたりの経費助成限度額 5 万円、300 時間以上は同 10 万円。現行の MISA 研修総時間数は 300 時間（フォローアップ研修含む）

#### 5. 来年度の計画など

- ・来年度の新人採用がないので、研修参加はないという状況。

#### 対象企業④

今年度受講生数：1 名（全 3 コース（※IT 技術基盤：Ⅱ（システム開発マネジメント））

日 時：2010 年 9 月 28 日（火） 13：30～15：00

出席者：

- ・対象企業：教育担当者 1 名、受講者 1 名
- ・MISA：金野（NAVIS）

#### 1. 受講者の生の感想（担当講師：IT 技術基盤 井本、オブジェクト指向：三苫）

- ・コース全体の感想として、学校では知らなかった、分からなかった部分を理解することが出来たという点で大変よかったと感じている。
- ・一日のうちで講義をする時間、チーム演習を行う時間の両方があるカリキュラムだが、この日は講義、この日はチーム演習というように日単位で区切ったほうが自分としては集中できたと思う。また技術を学ぶまでチーム演習では出来ないわけだし、例えば学ぶことを終えてしまって、その後チーム演習に集中してかかるほうがよいと感じた。
- ・IT 技術基盤（マネジメント）コースの講師の進め方、具体的にはチーム演習でまず情報を与えて新人たちが自分で考えて作業を進めるというやり方は役に立った。ただ途中で必要な軌道修正をもう少し早めに入れてほしかった。
- ・オブジェクト指向コースの講師は、多くの資料も頂いたし、一つ一つ丁寧に教えていただいたので感謝している。ただ時間の関係で問題演習を納得するまで出来ないときもあったのが残念であった。
- ・受講者交流会は NAVIS 会場ではなく、会費制でも一般の店で開いたほうが嬉しい。

- ・ゲストセミナーは、テーマが今の自分から飛躍してして、自分へのつながりが見えにくい内容のものがあつた。品質の話は身近に感じる内容だつたと思う。

## 2. 今年度参加の動機について

- ・まず会社の規模が小さく業務の関係上、自社内での教育が難しいので、新人の採用をはじめた3年前から昨年度までは外部から人に来てもらい自社ビルで研修をしていた。今年度はその外部講師が家庭の事情により出講出来なくなつたので、他に手段がなかつたのが理由である。
- ・IT技術基盤コースでマネジメントコースに参加させたのは、まず新人が専門学校卒でプログラミングがある程度分かつてゐるということ、そして何より「モノを考えること」を体験させた希望があつたからである。プログラマーからSEになる際は大体、「モノを考える」という部分で壁にあつたと思つてゐるので、そこに注意を置いている。
- ・当社は人数も少ないので、新人も近い世代の同僚がいない。そのため年の離れた人と意見を言い合えるようになってほしい。特に最近の若い世代は、何かあるとすぐ黙るので議論にならない。他者の新人が集まる研修の場で話・議論をすることが出来るようになってほしい。

## 3. 今年度実施訓練の評価に関して（教育担当者）

- ・良かった点としては、複数の会社の同年代の人が集まつてチームを組んで作業をするという経験ができたこと。カリキュラムの内容としてはビジネス基盤コースからオブジェクト指向コースまで特に問題はないし満足している。
- ・提案としては、最後の成果発表で新人が作った部分、デザインした部分が最小限にされているので、もっと見せてほしいということ。発表は「よく頑張つた」で終わつてゐるが、新人がデザインした部分に対してもっと議論があつてもいいのではと思う。
- ・演習は新人が各チームでデザインして仕組みを作つたところで一旦切つて、実装からは各チーム見本となる同じ仕様のもので作業したほうが時間的負荷が軽減されると思う。実装は言わば作るだけなので、それで十分ではないかと思つた。演習はデザインする部分でもっと議論や考えるという作業を徹底してやつてほしい。
- ・講師は成果発表のときに、出来なかつたチームのことを「遅くまで残つて頑張つたんですけど」とフォローしてゐたが、新人に対してそういう優しさは不要と思う。むしろ出来なかつたことを追求して、そつちを発表してくれたほうが良いと思う。この仕事は心の強さ、ハートがないとやつていけない。出来た（完成させた）チームがあつて、出来なかつたチームがあるのであれば、出来なかつたことを発表の場で「なぜ出来なかつたのか？」など追求し議論することがあつてよいと思う。
- ・受講者評価一覧表は参考にはなるが、一番欲しい情報として、新人の人的におかしな部分・性格や悪いところを教へてほしい。良い情報より、むしろ悪い情報が欲しい。最近の子は立ち回り方が上手なので、ぱつと見で見えない部分を知りたい。

## 4. 来年度の計画など

- ・来年度については現在、採用の予定がない。今後状況により変わるかもしれないが、今の段階では何ともいえない。

## 対象企業⑤

今年度受講生数：2名（ビジネス基盤養成・IT技術基盤 I（システム開発技術） 各2名）

日時：2010年9月30日（木） 14:00～15:30

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者1名、受講者2名
- ・MISA：金野（NAViS）

### 1. 受講者の生の感想（担当講師：浅野）

（受講者A）

- ・ビジネスマナーで電話応対や接客対応、敬語の使い方などロールプレイングで基礎づくりが出来たことは会社に戻ってから役立っている。社会人としての行動、意識も持てたと思う。また、顧客の立場になって考える大切さ、顧客ニーズを意識することを学べたのが大変よかったと思っている。
- ・IT技術基盤コースでは、チームで一つのものを作ることを経験でき、チームワークの大切さを実感できたのがよかった。開発工程がどういうものか学べたのも大きい。自分は言語の未経験者だったので、チームの中の経験者である仲間から教えてもらえたことも自分の成長につながった。
- ・講師それぞれのやり方に委ねている感じがした。担当講師のやり方は「まず自分で考えて問題をやってみて」というものだったが、考えても分からない状況で講師に質問が出来にくかった。質問したら「また考えなさい」と返されたこともあったが、自分としてはそこでアドバイスが欲しかった。
- ・受講者ブログは他のチームのことを知ることができ大変参考になったが、例えばブログを通して他の新人とコミュニケーションがとれるような仕掛けがあったらどうか？

（受講者B）

- ・ビジネス基盤コースでは、相手の気持ちになって物事を考えることや、説明するにあたっては「まず第1に伝えたいことを一言で分かりやすく表す」という尾田講師の教えが自分の中では大変印象に残っていて、社内教育や業務でも活かされていると思う。
- ・IT技術基盤コースを受講して、分からなければ分かるよう自分で何か行動するという意識が持てたと思う。チーム作業をすることでチームワークを学べたのもよかった。ただ、内容的には初心者が講義についていくのは大変で、基準が初心者のレベルになっていないと感じた。

### 2. 今年度実施訓練の評価に関して（派遣担当者）

- ・カリキュラムの内容としては問題ないと思っている。演習があつて、グループで1つものを作り、出来上がる喜びを感じるという体験はここでしか出来ない。それをやりながらこの日数で技術的なことを全て覚えて帰ってくることまでは難しいと思うし、それよりもチーム作業の経験をさせたかった。ただ、オブジェクト指向コースは今年の新人には難しい内容と感じたので参加を見送った。

- ・参加して一番よかったと思う点は、顧客の立場になって作るという意識付けができたこと。成果発表で見たが、作り上げたシステムの仕様にもそれが表現されていてよかった。
- ・今年度から取り入れた事前スキルチェックは大変ありがたい。研修に入る前に採用者に事前学習をやらせる指標として、チェック用紙の記載事項が活用できる。来年度の採用者にも、そのチェック事項の内容を目標として事前学習をさせるつもりである。
- ・プレゼンの発表に関しては、ビジネス基盤コースの尾田講師がプレゼン者に対してコメントしている指導法がよかった。プレゼンの直後にあれほどの適切なコメントをしていただけると新人も自信がつくと思う。
- ・技術系のプレゼン（IT 技術基盤コース）に関しては、発表時間が 10 分というのは短いと思われる。システムの説明も増やして 20 分にしてはどうか？
- ・受講者評価に関しては、例えば事前スキルチェックと同じものを事後にやらせて比較すると事前と事後の進捗度が分かるので、そのほうが参考になると思う。
- ・事務的な面では、研修申込書を MISA へ送った後、受領の返信がないので受け付けられているか不安になる。NAVIS から受講前連絡があって、それで確認が取れている状態だが、何か対処をしてほしい。

### 3. 助成金に関する懇談

- ・先日、雇用能力開発機構の宮城センターの方が来て助成金の紹介をしてくださり、今、「実践型人材養成システム」の認可申請を出している最中ではある。実際にキャリア形成促進助成金を活用するかについては、申請手続き等の事務作業負担を検討してみようと考えている。

### 4. 来年度の計画など

- ・来年は 2 人採用を予定しているが、今はまだ内定の段階なので正式に決まっていない。決まれば MISA 研修に参加させたい。オブジェクト指向コースは採用者のスキルを見て難しいかどうかで判断する。

#### 対象企業⑥

今年度受講生数：5 名（ビジネス基盤 5 名、IT 技術基盤 I ・オブジェクト指向 各 2 名）

日 時：2010 年 10 月 4 日（月） 10：30～12：00

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者 1 名、受講者 2 名
- ・MISA：金野（NAVIS）

### 1. 受講者の生の感想（担当講師：三苫）

（受講者 A）

- ・技術系コースを受講して、チーム演習が一番有益だったと感じる。自分はリーダーを担当して役割を十分には果たせなかったと自己評価しているが、リーダーに必要なメンバーの状況把握やスケジュール管理の重要性を認識できたのは大きい。

- ・受講者ブログに関しては、例えば受講者同士の質問掲示板の役割を持たせたらどうか？質問を投稿することに対し当番制などの強制化を図る必要は出てくると思うが。
- ・ゲストセミナーは、今の自分にはかけ離れた難しい内容のものがあつたと感じる。例えば IT スキル標準を基にした職種の話など。

(受講者B)

- ・技術系コースは、6 時過ぎの作業が多く、人によってはつらい内容と感じる人がいたと思う。そういった経験は大事だと思うし、自分としては耐えられたが、残業代も出ない状況で自分の勉強として割り切れていないような人が周囲に何人かいた。
- ・MISA 訓練を通して、新人同士のつながりは十分にできたと思う。最近でも全員ではないが集まる機会がある。幹事を会社持ち回りで担当しているが、それぞれ連絡先の持っている数が異なるので、全員に連絡がまわるようメーリングリストを作成する予定。

## 2. 今年度実施訓練の評価に関して（派遣担当者）

- ・各社からの要望もあつたと思うが、今年度はいろいろ改善していただいて、内容的には申し分ないと思っている。昨年は演習でシステムを作るのを中途半端にしていたチームもあつたが、今年度はそれがなくて安心した。
- ・ブログに関しては、正直なところチェックする時間がない。新人の状況に関しては、毎週金曜日に会社へ報告に来させ、そこで把握しているので、ブログはむしろ新人同士のコミュニケーションツールとして活用してはどうか？
- ・受講者評価は、現状の評価点方式よりも受講態度や姿勢、人格の面で気になる点や評価できる点などを箇条書きでもよいから4つ5つ並べてもらったほうが参考になる。
- ・フォローアップ研修は、現状の内容では魅力的に見えない。内容に新人研修からの継続性を持たせたらどうか？例えば、何かを作る、チームで何か課題をやるなどを新人研修終了後からフォローアップ研修日までに行わせて、フォローアップ研修では「出来た」「出来なかった」を評価するみたいな内容だとよいのだが。

## 3. 助成金に関する懇談

- ・助成金は、キャリア形成促進助成金のうちの「訓練の実施に対する助成」を利用している。以前、雇用能力開発機構から「実践型人材養成システム」の紹介も受けたが、事務負担が大きかったので見送った。

## 4. 来年度の計画など

- ・来年の採用に関しては、積極的に行わず、これらと思う人がいたら採用するという方針である。今の見通しとして採用は見えていない。また、新人教育も社内で行う比重を高めていく方針である。でありながら、社内教育では出来ない要素が MISA 訓練にはあるので、ある程度 MISA 訓練に頼らざるおえない部分もある。MISA 訓練のどこを利用していかは今後検討していくと思う。

## 対象企業⑦

今年度受講生数：4名（IT技術基盤Ⅰ・オブジェクト指向 各4名）

日 時：2010年10月6日（水） 14：00～15：30

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者1名、受講者4名
- ・MISA：金野（NAViS）

### 1. 受講者の生の感想（担当講師：三苦）

（受講者A）

- ・言語の経験がない初心者だったが、基礎から丁寧に教えてくださり、順調にレベルアップできた研修だった。
- ・先生からの教えのみに頼るのではなく、周りの他社の新人に教えてもらうことで理解も深まり、横のつながりも出来る。非常に有意義な時間を持つことができた。
- ・受講者ブログは、他のチームやクラスの状況を見ることができるので、受講者側にも役立っていると思う。例えば、投稿記事の最後に質問を書くようにしたら、他の人がコメントできてコミュニケーションが活発になるのでは？

（受講者B）

- ・講義の後、すぐに実習を入れてくださったので、基礎が定着しやすい進め方だった。だが、後半はペースが少し速くなって定着させるのに大変だった。
- ・技術系で同じコースなのに、クラスによって講義と演習にかかる時間が大きく異なるのはおかしいと思う。

（受講者C）

- ・講義の後に問題演習をやって次へ進むという進行は理解を深めることにつながっていると感じたが、もう少し考え悩む時間を入れてもらえればよかったと思う。
- ・ゲストセミナーでは、業界の最新の動向を、例えば、今で言えばクラウドとか SaaSなどを説明してもらえると嬉しい。

（受講者D）

- ・チームを組んで協力して作業を進めるという経験からコミュニケーション力が鍛えられたと感じる。技術や知識を学ぶだけの研修でなくて非常によかった。
- ・講義時間が延長して予定の演習時間内に食い込むことが結構あった。演習はもともと時間が足りないので、講義の時間の使い方、コントロールを上手にやってもらいたい。

### 2. 今年度参加の動機について

- ・（平成20年度まで参加して、平成21年度は参加されなかったようですが？）  
昨年度は新人を10人採用したので、費用の面から社内で人を当てて教育したほうがよいという判断だった。今年は4人だったので、以前のようにMISA研修を利用させていただいた。

### 3. 今年度実施訓練の評価に関して（派遣担当者）

- ・正直なところ、外から見るしかないので、研修の中身の実態は分からないものだと思っている。MISA 研修を信頼して新人たちを参加させているので、内容は MISA 側にお任せする。ただ、今年の4名は皆、初心者であり、このヒアリングで出てくる言葉は率直な意見だと思うので、是非、今後の検討において参考にさせていただきたい。
- ・成果発表を見学しての感想は、内容に雑な面はあるが彼らなりに結構なことをやったという感じで受け取っている。新人からは、発表時間が短く説明できない点があったという意見が出たが、限られた時間でそれをやることも大事である。来年度の検討においては、新人の意見に振り回されないようにしないと。

### 4. 助成金に関する懇談

- ・先日、雇用能力開発機構の方が来て助成金の紹介を受けた。今は「実践型人材養成システム」の認可申請を出している最中で、来年は利用する予定である。

### 5. 来年度の計画など

- ・来年度は4人採用することになっている。今年度と同じく、IT 技術基盤コースからオブジェクト指向コースまで参加させるつもりいる。

## 対象企業⑧

今年度受講生数：3名（全3コース（※IT 技術基盤：I（システム開発技術））

日 時：2010年10月7日（木） 13：30～14：30

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者1名、受講者2名
- ・MISA：金野（NAViS）

### 1. 受講者の生の感想（担当講師：浅野）

（受講者A）

- ・技術的なことは未経験だったので、分からないことは教えてもらえるものと思っていたが、講師の進め方は「自分で考えなさい」というスタンスが主体だった。ある程度すでに知識がある人向けの研修だと感じた。
- ・やはりチームを組んでの作業を経験できたのが大きい。リーダーの役割や必要なことも見ていて感じ取れたし、メンバーとしてそれをフォローする意識がついた。言語知識だけでなく開発プロセスの流れを理解できたのも大きな収穫だった。

（受講者B）

- ・チーム演習の経験は、人の動かし方や配慮の必要性を体得できて確かに有益だが、スキルの低い人は周りより少ない作業経験で終わってしまう場合もあると思う。個人で一度ひとつのシステムを作る演習を行って、その後でチームによる開発の演習があるのがよいと感じた。

## 2. 今年度実施訓練に関する懇談（派遣担当者）

- ・受講者評価は、採点式評価よりも、具体的なレベルで良いところや悪いところをあげてもらう形式のほうが役に立つかもしれない。採点式で5段階評価の「3」と言われても、「3」の基準は人によって異なるものであるし。
- ・受講者ブログについては、社内の LAN が東京本社経由でインターネットを見るようになっていて、そこで規制がかかっているせいなのか、会社で見れない状況である。はっきりとした原因は分からないが、たぶん URL が何かに blog というワードが付いているからではないだろうか？

## 3. 来年度の計画など

- ・来年度は4人採用する予定である。コースは今年度と同じく3コース全て受けさせる予定である。助成金（認定実習併用職業訓練）を利用するため3コース目まで参加しなければならないという理由からだが。

### 対象企業⑨

今年度受講生数：9名（IT技術基盤コースⅡ（システム開発マネジメント））

日時：2010年10月8日（金） 10：00～11：00

出席者：

- ・対象企業：教育担当者1名、派遣担当者1名、受講者9名
- ・MISA：金野（NAViS）

## 1. 受講者の生の感想（担当講師：井本）

- ・このコース内容（システム開発マネジメント）は自社の後輩新人に対し、非常に薦めることができるものと感じた。要求定義からはじまって一連の開発プロジェクトの流れを新人研修でここまで体験できるのは非常に大きい。今、一部の業務に携わっていても、周りの先輩が行っている作業の様子が分かるので、仕事のスピードと質もその分上がっていると実感している。演習では、実際に使われたシステムを基に模擬プロジェクトを進めるという実践的なものだったのが尚よかった。
- ・学習した SQL と ER 図が今の業務で大変役立っている。ER 図は自分で作成するわけではないがテスト業務で目にすることになるので、幅広い知識を学べたのだと実感する。
- ・このコースの演習を通して、コンサル的な内容を経験できたのが有益だった。今の業務で、先輩・上司が何をやっているのかが理解できる。詳細設計や製造、単体テストをやるにしても、先を意識して行える。
- ・演習は期限があって作業していくので、納期を意識すること、進捗が遅れたら挽回することの意識付けができた。
- ・欲を言うならば、演習で学んだ言語が自社で使われていない PHP だったので、Java などの自社で使われている言語が学べれば尚よかった。



- ・講師の教え方は大変よかったと思うが、演習を新人主体で進めさせていく過程で、おかしな点があれば、ある程度の時点ではアドバイスしてほしかった。失敗もよい経験であることは分かっているのだが。
- ・提案として、かかった作業時間の合計を書き出すだけで終わらせるのではなく、フォーマットを用意して毎日の作業時間を記録して提出させたらどうか？そのほうがより一層コストの意識付けができると思う。

## 2. 今年度実施訓練の評価に関して（教育・派遣担当者）

- ・各新人の配属先管理者からの報告では、この研修から帰ってきた後の様子から、コストを意識して行動できていると報告があがっているので、その点でまず大きな収穫を得たと認識している。研修の受講報告を見ても、この研修が有意義なものであったと分かる。研修主旨・内容は大変評価している。
- ・グループ演習はやはり新人研修で経験させるべき。他社の新人とのつながりを形成することも必要である。それができる MISA 研修の役割は大きい。

## 3. 来年度の計画など

- ・来年の採用は 12 名の予定で、うち営業職が 2 人いる。この 2 名を MISA 研修に出すかは今後、検討していく。

### 対象企業⑩

今年度受講生数：2 名（ビジネス基盤養成・IT 技術基盤 I（システム開発技術） 各 2 名）

日 時：2010 年 10 月 12 日（火） 10：30～12：00

出席者：

- ・対象企業：派遣担当者 1 名、受講者 2 名
- ・MISA：金野（NAVIS）

## 1. 受講者の生の感想（担当講師：三苫）

（受講者 A）

- ・MISA 研修は後輩となる新人にも薦められる有益な研修だと思う。その理由としては、他社の新人との合同開催のため、グループ演習を通して人間関係づくりが出来ることが一番にあげられる。ビジネスコミュニケーションを実践的に学べる貴重な機会だと思う。
- ・講義の進め方は理解しやすくて大変よかった。講義した後にその演習をやって、その繰り返しで進んでいくやり方は自分にとって大変やりやすかった。
- ・研修に関して気になった点は、講義と演習の両方を十分にやるには時間が足りないと思われる点。受講したクラスは講義予定時間に対してきっちり講義をやる方針だったので、そうすると演習の時間が足りないと思われる。講義も演習も両方重視するという事は、研修時間を考えると難しいのでは。

- ・先ほど、開発したシステムに対しての評価を成果発表に加えるという提案の話があったが、成果発表のときに入れるのではなく、演習時間の中でシステムを作り上げたときにクラス内でシステム評価会を実施することではどうか？

(受講者B)

- ・技術系コースでは、出された演習問題に対して自分なりの答え（ソースコード）を出していくが、答えはいろいろあるだろうから、他の人の答えを随時共有できるような仕組みがあったら役立つと思う。自分の答えがどこまで正しいかは自分で判断するしかない状況だったが、隣の人とソースコードの議論をしたときは大変参考になった。他の人とも答えに関する意見交換ができる仕組みがあったらよいと思う。

## 2. 今年度実施訓練の評価に関して（派遣担当者）

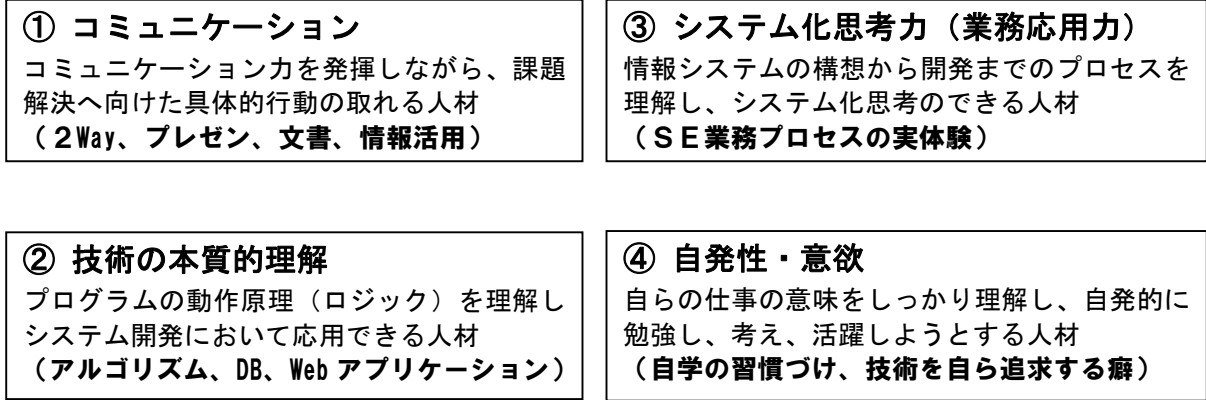
- ・昨年度と同様、今年度のMISA研修においても内容的には満足しているし、帰ってきてからの新人の活躍ぶりは期待以上のものになっている。OJTで企画の業務にあたらせて、営業の同行をやらせているが、顧客からも新人に対しての良い評判を頂いた。日常業務を含めて、特にビジネス基盤コースの内容が活かされているのだと感じた。
- ・今回ひとつ提案したいのは、成果発表の時間をもっと長くして、開発した成果物に対する評価も聞きたいということ。例えば、最初に講師が課題説明をした中に「システムの目的」があったが、その目的が適えられたシステムになったのか？を自グループで評価・検証することがあったら、なお良くなると思う。

## 3. 来年度の計画など

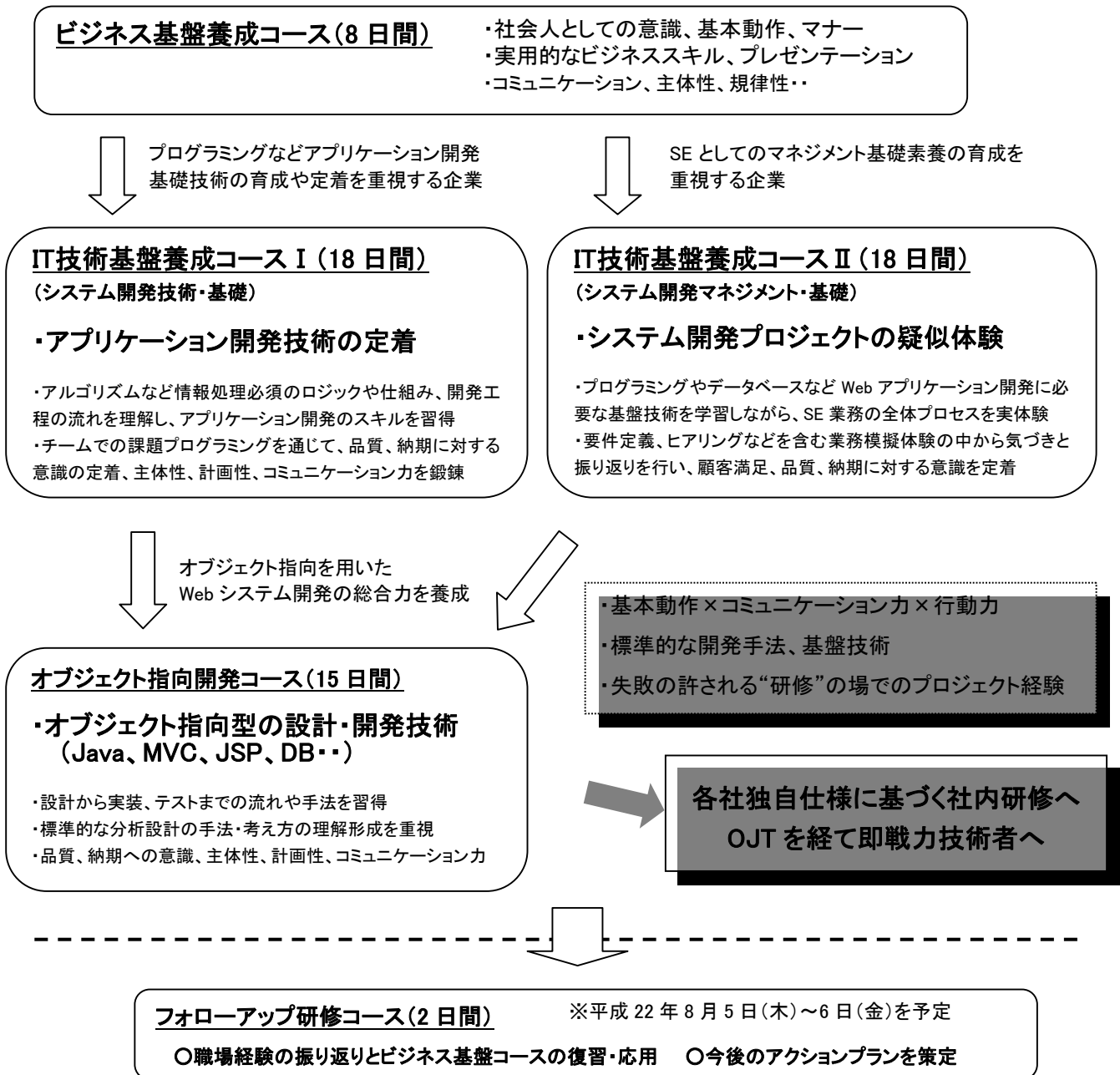
- ・来年度は3名の予定で内定を出している。ただ、全員が非技術系の新人で、営業職で採用する予定である。こちらからの要望になるが、ビジネス基盤コースが終わった後すぐに、営業職育成の新人研修をやっていただけないだろうか？

## MISA 認定職業訓練の基本体系

### <育成人材像> MISA 企業の中核となり、将来を担うシステムエンジニアの育成



### <研修の基本体系と到達目標>



## 予定内容及び会場、講師等

ビジネス基盤養成コース（8日間） 各日9：30～17：30

### コースの目的・狙い：

社会人としての基本動作を習得すると共に、MISA 訓練ならではの特色としてビジネスの実践の場で要求されるビジネススキルやコミュニケーションの実務基礎スキルも育成します。

### 育成・到達目標：

1. ビジスマナーの基本動作ができる（挨拶、電話応対、敬語、身だしなみ、名刺交換等）
2. 組織で働く上での基本動作ができる（ビジネス文書作成、報連相、効率性／正確性、PDCA等）
3. 協調性・柔軟性を持った組織内コミュニケーションが実践できる。  
（チームワーク形成、ミーティング、職場の人間関係形成等）
4. 主体性・積極性を持った応用コミュニケーションが実践できる。  
（論理思考、企画／プレゼンテーション、積極的傾聴等）
5. ビジネスコミュニケーション力を駆使し、実際の現場で即戦力となるビジネス活動ができる。

科目・日程	概要	講師
開校式 4/2(金) 9:15～	MISA 人財育成委員長・挨拶、及びオリエンテーション	
<b>ビジスマナー</b> <b>（3日間）</b> 4/2（金）～6（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人としてのマナー、ビジネスの場で必要な各種コミュニケーションについて学習します。</li> <li>・要領の得た話し方、説明・報告の仕方、ビジネストーク・敬語、態度、ミーティングでの発表などについて実際の演習を通じて体得します。</li> <li>・ロールプレイング等を中心とした内容により、着実な定着と職場での実践につなげます。</li> </ul>	フリーアナウンサー （仙台市） 志伯 暁子  リンケージルーム 1 （3F）
<b>ビジネススキル I</b> <b>（2日間）</b> 4/7（水）～8（木）	<b>ビジネス文書、チームワーク</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社内外に必要な基本文書の作成、報告書の作成、e-mailでのマナーなど文書作成を幅広く学習。</li> <li>・仕事への取組意識、対人折衝、チームワークなどIT企業必須のヒューマンスキルに関して、グループでの演習を交えながら実践的に学習。</li> </ul>	（有）マネジメントプラン（仙台市） 代表取締役 杉山 厚志 リンケージルーム 1 （3F）
<b>IT ビジネスコミュニケーション</b> <b>（2日間）</b> 4/9（金）～12（月）  <b>※プレゼン発表会</b> 4/12（月）13：00～	<b>IT ビジネスコミュニケーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ITビジネスの商談の進み方、その中で必要となる顧客対応力（ヒアリング、e-mail、コンプライアンス、個人情報保護など）に関する総合的なコミュニケーション力を養う。</li> </ul> <b>企画提案書作成、プレゼンテーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションのためのシナリオづくり、企画書作成、コミュニケーション力を養う。</li> </ul> <p>※2日目の13：00～17：30の予定でプレゼンテーション成果発表会を行います。受講企業の人事・教育ご担当者等の参観も可能とし、成果報告の機会を作ります。</p>	マネジメントテクノロジーズ, LLC （東京都） 尾田 友志  ワークショップ ルーム 2（2F）
<b>ビジネススキル II</b> <b>（1日間）</b> 4/13(火)	<b>論理思考・ディベート</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロジカルな思考力の鍛錬や会議運営などビジネススキルの応用力を養います。</li> </ul>	
<b>【ゲストセミナー I】</b> 4/9（金） 16：30～17：30	テーマ：IT業界の動向と技術者にとって必要なもの（仮題） システムニ科尔(株) 取締役 田代 紀生 氏 （※1時間程度の講演＋質疑）	
<b>【訓練生交流会 I】</b> 4/9（金） 17：40～19：30	会場：NAVIS リンケージルーム（会議室）	

**IT 技術基盤養成コース I (システム開発技術・基礎コース) (18日間)**

各日 9:30~17:30 (16:30~17:30は課題演習)

**コースの目的・狙い:**

アプリケーション開発に不可欠な情報処理の基礎技術を養います。また、オープン系の模擬 Web システムの開発を通じ、IT 企業のシステム開発の基本的な流れや、開発現場における実務的な留意点等に関して理解を深めます。

本コースはアルゴリズムなど基本原理の理解、技術動向の変化に左右されない開発技術力の定着を重視しております。各社固有の開発環境における OJT への橋渡しとなる、標準かつ実務的な基礎技術を本コースで養うことができます。

**対 象:**

プログラマーやシステム開発技術者に必要な基礎技術の育成と定着を重視する企業  
(事前のプログラミング経験の有無は問いません。)

**育成・到達目標:**

1. プログラムの基本原理を理解し、言語に左右されないプログラム開発技術基盤を有する。
2. 業務系システムの必須技術であるデータベースの基本技術を理解し設計・実装できる。
3. オープンソースを基盤とした Web アプリケーション開発技術を理解し、実装できる。
4. 例外処理、バグなど開発現場における必須の留意点を同時に学び、ソフトウェアの品質意識を持つ。
5. 模擬 IT システム開発プロジェクトの実践を通じて、IT 開発の全体像や流れを理解できる。
6. チームでのプロジェクト推進の実体験を通じて、リーダーシップやコミュニケーション、主体性や計画力、納期を意識した行動を現場で実践できる。

**講師・会場・テキスト:**

**Aクラス**

講 師：(有)パーソナリティレビュー (横浜市) 三苦 健太

会 場：ワークショップルーム 2-B (2F)

テキスト：やさしい C 第 3 版 (ソフトバンククリエイティブ)

独習 SQL 第 2 版 (翔泳社)

PHP のドリル (ソシム社)

ほか講師独自資料

**Bクラス**

講 師：IT スペシャリスト (仙台市) 浅野 秀一

会 場：ワークショップルーム 2-A (2F)

テキスト：図解でわかるソフトウェア開発のすべて (日本実業出版社)

独習 C 第 4 版 (翔泳社)

独習 SQL 第 2 版 (翔泳社)

速効! 図解プログラミング PHP+MySQL (毎日コミュニケーションズ)

ほか講師独自資料

※本コースはシステム開発現場での基礎技術や要素技術の習得を重視した内容です。

科目・日程	概 要
開校式 4/14(水) 9:15~ (オリエンテーション含む) ※ワークショップルーム 1 (2F)	
プログラム開発プロセス 4/14 (水) (1日間)	・アルゴリズムの組み立てからプログラムの開発、テスト、デバッグまでの基本的なプログラム開発プロセスをまず理解する。
アルゴリズムと C 言語 4/15 (木) ~23 (金) (7日間)	・プログラムのロジックを理解し、開発の本質となる基本の定着を目的とした研修。 ・最も汎用性が高く実践的な言語である C 言語を題材に、アルゴリズムの組み立てやフローチャートの記述、プログラム構造、データ型や変数、演算子、条件分、繰り返しなどの基本を演習。

予備日 4/26 (月) (1日間)	・前半部分に関する定着度の確認とフォローアップを行う。
RDB 入門 4/27 (火) (1日間)	・データベースシステムの概要を学習。データベースの構造や仕組みなど業務アプリケーション向け開発の基盤を形成。
DB 操作と SQL 言語 4/28 (水) (1日間)	・OracleDB (Oracle10g Windows 版を予定) の各種ツールの使用、SQL 言語を学習すると共に、SQL を使ったデータベース操作を学習。 ※中間レビュー 1 課題プログラム演習 (定型課題) に関する出来具合等のチェック
(GW期間中の平日)	事前の申出により平日に限り会場を開放 (9:00~17:30)。 (事前申出のない場合は開放しません)
DB 操作と SQL 言語 5/6 (木) ~7(金) (2日間)	・OracleDB (Oracle10g Windows 版を予定) の各種ツールの使用、SQL 言語を学習すると共に、SQL を使ったデータベース操作を学習。
Web 開発演習 5/10 (月) ~12 (水) (3日間)	・業務アプリケーション開発の初歩として、汎用性の高い PHP による Web アプリケーション開発を学習。  ※中間レビュー 2 (5/11 (火) を予定) 課題演習 (定型課題) に関する出来具合等のチェック、発表指導
発表準備 5/13 (木)	・理解度のおぼつかない受講生はフォローアップとして納得いくまで弱点分野の課題を解く演習を実施。 ・課題作成プログラムのプレゼンテーション資料等を作成。
課題作成プログラム (期間を通じて) 発表会 5/14 (金)  ※受講企業の人事・教育担当者等の参観も可能とし、成果報告の機会を作ります。	・講師提示の研修内容に関連したプログラム開発に関する課題により、グループにて仕様書作成、開発、発表までプログラム開発の流れを経験。他社との混合チームとしチームワーク力も吸収する。  ※内容や開発規模は軽めのものとし、研修内容の定着を主目的とする。 ※成果物の完成は主目的とはせず、プロセスを重視。 ※概ね期間後半 (「アルゴリズムと C 言語」終了後) を日処に課題演習を開始。
[ゲストセミナーⅡ] 4/23 日 (金) 16:30~17:30	テーマ: ソフトウェア開発の品質管理 (仮題) (株)ビッツ 東北事業所長 大森 清視 氏 (※1時間程度の講演+質疑)
[訓練生交流会Ⅱ] 4/23 日 (金) 17:40~19:30	会場: NAViS リンケージルーム (会議室)

※ 受講者の習熟度等に応じた柔軟な対応を行う目的において、カリキュラムや時間配分をコース単位で一部変更する場合があります。

※ プログラム実習はフレームワークを利用し Windows 上で実施。DB は Oracle10g Windows を利用。

**IT 技術基盤養成コースⅡ（システム開発マネジメント・基礎コース）（18日間）**  
 各日9：30～17：30（16：30～17：30は課題演習）

<b>コースの目的・狙い：</b>
ITシステム開発プロジェクト全体の模擬体験を通じて、標準的な設計技術、Web アプリケーション開発技術、プロジェクトの進め方などSEの総合的な実務基礎スキルを学習します。 研修では標準的なウォーターフォールモデルのケースを用い、失敗の許される“研修”という場において要件定義から設計、開発、テスト、納品まで一連の開発プロセスを体験します。 情報システム開発プロジェクトに参画する基礎力を、要素技術と共に養うことが目標です。
<b>対 象：</b>
システムエンジニアとしてのマネジメント基礎素養の育成を重視する企業 （事前のプログラミング経験の有無は問いません。プログラミング経験者、営業系SEなどの候補者にも適します。）
<b>育成・到達目標：</b>
1. 業務系課題の解決を目指した情報化プロジェクトの実践を通じて、ITシステム開発上流工程からの全体像や流れを理解し、プロジェクト要員としての必要な行動ができる。 2. プロジェクト推進に必須となる計画書の作成、人員やリソースを踏まえた役割分担、仕様書・設計書、議事録などのドキュメンテーションやプレゼンテーションができる。 3. Web アプリケーション開発に必要な基礎技術（PHP、MVCモデル、SQL等）を有する。 4. 例外処理、バグなど開発現場における必須の留意点を同時に学び、ソフトウェアの品質意識を持つ。 5. チームでのプロジェクト推進の実体験を通じて、リーダーシップやコミュニケーション、主体性や計画力、納期を意識した行動を現場で実践できる。

**講師・会場・テキスト：**

講 師：(株)デジタルイノベーション（さいたま市） 代表取締役 井本 貴志  
 会 場：ワークショップルーム1（2F）  
 テキスト：図解でわかるソフトウェア開発のすべて（日本実業出版社）  
 業務システムのための上流工程入門（日本実業出版社）  
 10日でおぼえるPHP5入門教室 第2版（翔泳社）  
 ほか講師独自資料

※本コースはシステム開発の全体の流れ・マネジメント的内容を重視したコースとなります。

科目・日程	概 要
開校式 4/14(水) 9：15～（オリエンテーション含む）※ワークショップルーム1（2F）	
システム開発プロセス 4/14（水）（1日間）	・システム開発における必要な工程（要求分析～納品）とプロジェクトをマネジメントする上での基本的な要点について理解する。
要求分析・要件定義 4/15（木）～16（金） （2日間）	・課題プロジェクト演習として講師が設定した定型課題を基に受講者間で顧客訪問ロールプレイングを行い、顧客要件をヒアリングし議事録を作成、要件定義書としてまとめる。
ソフトウェア設計 4/19（月）～22（木） （4日間）	・システム化要件定義を受けて、ソフトウェアへの要求事項について外部設計書、内部設計書を作成し、クラス内レビューを行う。
PHP 入門 4/23（金）～26（月） （2日間）	・業務アプリケーション開発の初歩として、オープンソース利用の典型であるPHPによるWebアプリケーション開発を学習。
RDBとSQL言語 4/27（火）～28（水） （2日間）	・データベースシステムの概要、SQL言語を学習。データベースの構造や仕組みなど業務アプリケーション向け開発の基盤を形成。

	<p>※中間レビュー1 前半の要件定義と設計書、開発計画等に関する中間レビューを実施。設計や開発計画の妥当性、品質などに関してチェックを行い、実装・テストへつなげる。</p>
(GW期間中の平日)	<p>事前の申出により平日に限り会場を開放(9:00~17:30)。 (事前申出のない場合は開放しません)</p>
DB操作とSQL言語 5/6(木)(1日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>MySQLの各種ツールの使用、SQL言語を学習すると共に、SQLを使ったデータベース操作を学習。</li> </ul>
Web/DB連携プログラム 5/7(金)(1日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した技術の総仕上げとしてWeb/データベースアクセス型のアプリケーション開発を学習。</li> </ul>
Web開発演習 5/10(月)~11(火) (2日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題プロジェクト演習で作成した設計書を基に開発を行う。</li> <li>製造したモジュールを、仕様書を基に単体テストを行う。</li> </ul>
システムテストと仕様変更 5/12(水)(1日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕様書に基づきシステムテストを行い、納品できる状態まで仕上げる。</li> <li>顧客からの仕様変更も想定した修正、再テストまで実施する。</li> </ul>
プロジェクト実績評価 5/13(木)(1日間)	<p>※中間レビュー2 課題演習(定型課題)に関する出来具合等のチェック、発表指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトの計画と実績を基にして、進捗、生産性、品質などの差異分析を行い、プロジェクトの完了評価を報告書にまとめる。</li> <li>課題演習を振り返ったレビュー、プレゼンテーション資料の作成等も行い、成果発表会に向けた準備を行う。</li> </ul>
課題プロジェクト演習 (期間を通じて) 発表会 5/14(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務系の課題を元にシステム開発模擬プロジェクトを推進。グループ演習にて情報システムの企画から設計、開発、テスト、納品までシステム開発の一連の流れをプロジェクトマネジメントの観点から学習。</li> <li>所属会社や保有スキルを問わず全てバラバラの混合チームに分け、プロジェクトチームで開発していく意義やコミュニケーション、ドキュメントの整備、役割分担と計画、品質など業務系システム開発に不可欠かつ重要な内容を模擬体験できるものとする。</li> <li>課題作成プログラムは研修に並行して進める。</li> </ul>
※受講企業の人事・教育担当者等の参観も可能とし、成果報告の機会を作ります。	
[ゲストセミナーⅡ] 4/23日(金) 16:30~17:30	<p>テーマ:ソフトウェア開発の品質管理(仮題) (株)ビッツ 東北事業所長 大森 清視 氏 (※1時間程度の講演+質疑)</p>
[訓練生交流会Ⅱ] 4/23日(金) 17:40~19:30	<p>会場:NAVIS リンケージルーム(会議室)</p>

※ 受講者の習熟度等に応じた柔軟な対応を行う目的において、カリキュラムや時間配分をコース単位で一部変更する場合があります。

※ プログラム実習はフレームワークを利用しWindows上で実施。DBはMySQLを利用。



**オブジェクト指向開発コース（15日間）**

各日9：30～17：30（16：30～17：30は課題演習）

**コースの目的・狙い：**

オブジェクト指向を用いた Web システム開発の総合力を養成します。Java や JSP、Servlet 等の要素技術の定着を中心としながら、PBL (Project Based Learning) による開発模擬演習も交え、Web システムの設計から実装、テストまで一連の開発工程に対する理解を深めます。

**対 象：**

Web システム開発を事業ドメインする、または新入社員に体験させたい企業  
(プログラミングの経験の有無、「IT 技術基盤コース」受講の有無は問いません。)

**育成・到達目標：**

1. オブジェクト指向開発に必要な実践技術 (Java、MVC モデル、JSP、DB 等) を有する。
2. UML による標準的な分析設計の手法・考え方を理解し、研修後に各社の独自手法と相対的に比較しながら現場で必要な分析設計ができる。
3. Java 系の模擬 IT システム開発プロジェクトの実践を通じて、オブジェクト指向によるシステム開発の標準的な手法や流れを理解できる。
4. 例外処理、バグなど開発現場における必須の留意点を同時に学び、ソフトウェアの品質意識を持つ。
5. チームでのプロジェクト推進の実体験を通じて、リーダーシップやコミュニケーション、主体性や計画力、納期を意識した行動を現場で実践できる。

**講師・会場・テキスト：****Aクラス**

講 師：(有)パーソナリティレビュー（横浜市）三苦 健太

会 場：ワークショップルーム2-B（2F）

テキスト：基礎からのサーブレット/JSP（ソフトバンククリエイティブ）  
やさしい Java（ソフトバンククリエイティブ）  
オブジェクト指向開発トレーニングブック（技術評論社）  
ほか講師独自資料

**Bクラス**

講 師：ITスペシャリスト（仙台市）浅野 秀一

会 場：ワークショップルーム2-A（2F）

テキスト：Java6 プログラミング講座（アスキー）  
改訂新版 基礎 UML（インプレス）  
基礎からのサーブレット/JSP（ソフトバンククリエイティブ）  
ほか講師独自資料

科目・日程	概 要
オブジェクト指向 分析・設計 5/17（月）～19（水） （3日間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ システム開発の手順を理解する。</li> <li>・ オブジェクト指向の基本知識を習得する。</li> <li>・ システム分析・設計の開発モデルを理解する。</li> <li>・ UMLによる要求のモデリング、ユースケース図等のシステム分析や設計の基本的なパターンを学習する。</li> <li>・ 課題演習の要件定義・設計図の作成を併せて行う。</li> </ul>
オブジェクト指向 プログラミング 5/20（木）～25（火） （4日間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オブジェクト指向言語として主流である Java について、その特徴や基本構文（条件分岐、繰り返し、演算子）、クラスやメソッド、オブジェクト等を解説。</li> <li>・ クラスの継承や多様性、カプセル化などについても学習。</li> <li>・ 課題演習として、システム化要件定義を受けての「機能分割」「インタフェース設計」「コンポーネント設計」「入出力画面および帳票」「コード」「データベース設計」などをソフトウェア設計書にまとめる。</li> </ul>

<p>課題作成プログラム・ 中間レビュー 5/26 (水)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務系の定型課題による要件定義と設計、仕様書作成、開発計画等に関する中間レビューを実施。設計や開発計画の妥当性、品質などに関して2クラス合同で発表会とレビューを行い、開発演習へつなげる。</li> <li>・ チームワークでの議事録や役割分担等についてもレビューを行う。</li> </ul>
<p>サーバサイド Java プログラミング 5/27 (木) ~6/1 (火) (4日間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サーバサイド技術である JSP/Servlet、JDBC によるデータベースアクセスに関して学習し、Web アプリケーション開発力を支える基盤技術として吸収する。</li> <li>・ 単純な要素技術ではなく通信プロトコル、UML、HTML や HTTP といった背景/関連技術の要点を交え、ある程度独り立ちできることを狙いとする。</li> <li>・ MVC モデル (Controller、View、Model) 設計に関して学習し、課題演習のソフトウェア設計書を仕上げる。</li> </ul>
<p>プログラム実装・ テスト 6/2 (水) ~3 (木) (2日間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期間を通じて取り組む課題作成プログラムに関して、システム設計結果を基にプログラム実装、テストを行い成果物を完成させる。</li> <li>・ 開発プロセスを振り返ったレビュー、プレゼンテーション資料の作成等も行い、成果発表会に向けた準備を行う。</li> </ul> <p>※中間レビュー2 (6/3 (木) を予定) 課題演習 (定型課題) に関する出来具合等のチェック、発表指導</p>
<p>課題作成プログラム (期間を通じて) 発表会 6/4 (金)</p> <p>※受講企業の人事・教育担当者 等の参観も可能とし、成果報 告の機会を作ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師提示の研修内容に関連したシステム開発に関する課題により、グループにて設計、開発、テストまでプログラム開発の流れを経験。他社との混合チームとしチームワーク力も吸収する。</li> </ul> <p>※内容や開発規模は軽めのものとし、研修内容の定着を主目的とする。 ※成果物の完成は主目的とはせず、プロセスを重視。</p>
<p>[ゲストセミナーⅢ] (5/21日(金)を予定) 16:30~17:30</p>	<p>テーマ例：システムエンジニアの仕事 (仮題) 日本アイ・ビー・エム・サービス(株) 東北支社 横下 誠 氏 (※1時間程度の講演+質疑)</p>

※ 研修の目的に照らし合わせながら受講者の習熟度や進捗状況によって適宜習得技術内容の追加や割愛を行う場合もあります。

※ プログラム実習はフレームワークを利用し Windows 上で実施。DB は Oracle10g Windows を利用。

社団法人宮城県情報サービス産業協会  
認定職業訓練フォローアップ研修内容

**研修目的：**

本研修は（社）宮城県情報サービス産業協会・平成22年度認定職業訓練新人研修受講者を対象に、新人研修後の実務あるいはOJTを踏まえてフォローアップを行い、2年後、3年後のより前向きなビジネス行動につなげていくことが目的です。

また、認定職業訓練から数ヶ月程の期間が過ぎた中で、同じ机を並べ学習に励んだ異なる企業の受講者間での交流を深め、今後の糧にしてもらうことも目的としております。

**受講対象者：**平成22年度MISA認定職業訓練・新人研修受講者

（受講コース/会員・非会員問わず、技術系コースのみの受講者も対象）

**日時・会場：**平成22年8月5日(木)～6日(金)、9時30分～17時00分、  
NAVIS リンテージルーム

**カリキュラム（全て演習中心）：**

（時間：9:30～17:00（昼休み12:00～13:00）（2日目終了後会場にて受講者交流会を開催））

研修名	内容
ビジネスマナー& コミュニケーション （志伯講師） 8/5（木） （6.5時間）	ビジネスマナーの振り返り ビジネスマナーの復習、敬語、電話対応などのロールプレイング復習 ビジネスの現場でのコミュニケーション（話し方の視点） 双方向コミュニケーション、スピーチ、簡潔で要領を得た話し方、自己のコミュニケーションスタイル分析 など
ビジネススキル& キャリア形成 （杉山講師） 8/6（金） （6.5時間）	問題解決と行動計画 問題解決のステップ、問題の明確化、 主体的キャリア形成と自己能力開発ポイント、 現状分析と原因分析の手法 行動目標の設定、自己管理の手法 など

※研修の進捗や受講予定者の状況等により内容や時間配分等を予告なく変更する場合があります。

※1クラス20人以内での開催を計画しております。

<担当講師>（※4月実施の「ビジネス基盤養成コース」の講師が担当）

① 志伯 暁子 氏（仙台市・フリーアナウンサー）

② 杉山 厚志 氏（仙台市・経営コンサルタント）